



中学3年生で今年が最後の「鬼」となった竹中心愛さん(右)は「伝統を受け継いでいてほしい」と話し下級生にバトンを託しました。



秋吉



星が輝く夜空に「アマメ」の音が響きます。2月3日、国指定重要無形民俗文化財の「アマメハギ」が秋吉・河ヶ谷・清真・宮犬の各地区で行われました。行事は小中学生が鬼に扮して家々を回るもので、「アマメ」とはいろいろなどにあたりすぎるとできるといわれる「火だこ」のこと。立春前夜に家々をまわり「アマメ」と叫ぶ子どもたちを脅して怠け癖がついていないか戒めます。

6時半、秋吉地区では「蓑」や「前垂れ」を身につけ手にはサイケ、包丁などを持った子どもたちが各家を巡り始めました。鬼たちがかけ声とともに玄関に入ると、待ち受けた子どもらはそそくさと家族にまわり付いて鬼たちから遠ざかります。驚きのおまり「悪いことをしません」と約束し泣き叫ぶ子どもの姿も見られました。

アマメハギに欠かせない「蓑」や「前垂れ」は、一月中旬、住民らが秋吉公民館に集まり、選別した稲わらを丁寧に編み込み、立派な衣装に仕立てて鬼役の子どもたちの活躍を支えています。



春を呼ぶ能登の来訪神

アマメハギ





## 宮犬



宮犬では9時過ぎに役目を終えた子どもたちが集会所に戻りました。家々でもらったお駄賃やお菓子を上級生が中心となり等分し、みんなでおねぎしながら楽しみ分かち合う様子が見られました。

地区の子どもは少なく、今では、地区出身者の子どもや孫、親戚の子どもが鬼役を務めアマメハギを盛り上げています。今年は秋吉地区が7人中2人、河ヶ谷地区が6人中5人、宮犬地区が6人中2人、清真地区6人中3人の地区以外の子が鬼役を務めました。秋吉地区アマメハギ保存会長の天野登さんは「うちの子どもにも鬼をやらせたい」という話があったと、嬉しそうに話しました。



## 河ヶ谷



## 清真



講演会「アマメハギとあえのことく訪れる神々の民俗」

## 期待を胸に次なるスタートへ

秋吉公民館で2月8日、文化庁文化財調査官の石垣悟さんによる講演会があり、住民約50人が、アマメハギの特色や無形文化遺産の条約の仕組み、登録過程について学びました。

熱心に耳を傾ける参加者



「登録はゴールではなくスタートになる」と石垣さん

世界無形文化遺産は平成18年に発効した「無形文化遺産の保護に関する条約」による制度で、他と比べて優れているものを選ぶのではなく、人類の無形文化遺産の「代表例」として「一覧表に登録（記載）する」ことで、代表にならなかつた文化・風習なども含め保護が促進されることを狙っています。講演で世界無形文化遺産が、文化庁やユネスコでどのような過程を経て登録されるのかについて説明されました。アマメハギは登録済みの「甕島のトシドン」を拡張し、類似性のある「男鹿のナマハゲ」など「来訪神行事」として一括して登録されますが、この一連の動きがユネスコの登録処理方針に合わせて行われたものであると紹介しました。

石垣さんは、見えない神をまつる「イドリ祭り」や、姿は見えないが存在するようにふるまう「あえのことく」、そして仮面をつけて姿を見えるようにした「アマメハギ」など、町内の行事に見られる特徴を紹介し、能登の祭りの多様性・創造性を評価しました。

講演を聞いた参加者は、登録へ期待に胸を高ならせ、保存の意欲を新たにしていました。

## 地域ので次世代につなぐ

行事を続けるにあたり、後継者や担い手が不足し、継続が困難となる場合があります。今回講師を務めた石垣悟さんも継続することは難しく、簡単なことではないと話します。良くないのは「今までの形で必ずやらないといけない」と決め、負担になって辞めること。多少変わっても続けていくことが大切だと力を込めます。他地域の事例にもあるように、土日に日程を変更し、子どもや帰省者が参加しやすいようにすることも選択肢になるとし、自分たちだけで解決するのではなく、同様の問題を解消した地域や、専門家などの外部と相談するなど、多くの人を巻き込む事も重要だと話します。

担い手の減少は今に始まった事ではありません。「今も行事が続いているのは、地域に困難をくぐり抜ける力があるということ」と、石垣さんは地域の「地力」に希望を見だし、期待を込めました。



文化庁文化財調査官  
石垣 悟さん

秋田県秋田市生まれ。筑波大学大学院歴史人類学研究科、新潟県立歴史博物館学芸課研究員を経て現職。

# 航海の安全と大漁を起舟



宇出津



小浦



波並



藤波



矢波



鵜川



住職が参加者一人一人の体を巻物でさすり体を清める。



祀られた海の守り神「金比羅」に祈祷する住職、関係者ら。

航海の安全と大漁を祈願する漁師の伝統行事、起舟が2月11日に行われ、町内各地の港の漁船には色とりどりの大漁旗が掲げられていました。

起舟は正月の間、浜に引き上げてあった漁船を旧暦1月11日に起こして海に浮かべたことからこの字が宛てられており、昔は漁師の仕事始めを意味していました。網元の家では船の乗子・漁夫や親戚を招き盛大な祝宴を開くことで豊漁を祈ります。

近年は簡素化が進んでいますが、七見の中田作助さん宅では親戚や漁船の乗組員など約50人が集まり、住職による祈祷ののち祝宴が行われ、今年一年の豊漁を願いました。

柳田の重年集会所で2月11日宗屋神社の春祭り「十七夜祭り」が開かれ、氏子ら約40人が神事に臨みました。

神事のあとの直会にはカブを中心に縁起物の料理が並びます。これは集落が飢饉に見舞われた際、日宗屋の神様がカブを持って駆けつけ飢えを救ったという言い伝えに由来するものです。

宴が盛り上がっていると「松祝い」が行われます。今年は畦に穴を空けたり稲を荒らす蟹の子「ガンの子」を柳田小学校4年生の国重彦郎くんと地区住民の親戚の子どもらが演じました。

宮総代らが稲に見立てた若松を立てようとしませんが、ガンの子に枝を握られて妨害されます。祝いを歌いながら松を立て今年豊作を祈りました。

なかなか枝を離さない可愛らしいガンの子に笑いが起る会場



参列者は「松祝い」の前に、手水の代わりのお盆に載せた雪で手を清める。



三段重ねのカブの煮物が膳に並ぶ。



# 若松に豊作を十七夜祭り

## 自主防災組織をつくらう!!

※詳しくは 総務課危機管理室 ☎ 62-8513

1月の終わりから2月にかけて、町内の広範囲で断水が発生しました。

「こんな時に備蓄があれば」と思った方も多いのでは。災害が大きければ大きいほど町が行う対策や支援を受けるまでの時間が長くなります。

町内会で、いざという時に自分たちで地域を守る「自主防災組織」を結成し、備蓄や訓練を行い有事の際に備えましょう。

◆自主防災組織補助金  
自主防災組織の立ち上げや資機材購入を補助しています。

補助金額  
構成する世帯1世帯につき1万円  
※初年度は10万円加算し立ち上げをサポート

## 宇出津吹奏楽研究会 第31回 定期演奏会



とき 3月18日(日) 午後1時30分開演

ところ 能都社会福祉会館(役場能都庁舎) 4階大ホール

入場 無料  
いつも応援いただき、ありがとうございます。今回も、J-POP、映画音楽など盛りだくさん!皆様のご来場を心よりお待ちしております。